

保育所保育指針の改訂（育ってほしい 10 の姿）

平成 29 年 3 月 31 日に保育所保育指針の改訂が告示されました。今回の改訂は、幼稚園や保育所を含む学校教育全体の理念に基づいて行われています。子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを重視しています。つまり、子どもの育ちを資質・能力という視点で、幼児教育から小学校、中学校、高等学校まで一貫してみたいものです。それでは、幼児期に育みたい資質・能力とはどのようなものでしょうか。学校教育において育成すべき資質・能力とは、生きる力と言われている「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を示しています。「確かな学力」とは、単にテストの点数が高いといった「知識や技能」だけでなく、それを活用する「思考力」「判断力」「表現力」、そして主体的に学習に取り組む「態度」のすべてを学力と捉えています。これらを踏まえて幼児教育において育みたい資質・能力として「知識および技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性」を示しています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿には 10 項目あります。そして、これらは到達目標ではなく育つ方向性を示しています。幼児期の教育では、できたのか、できないのか、わかったのか、わからないのかといった結果で評価するものではありません。幼児教育のプロセスにおいて、幼児たちがどれだけ豊かな体験をするのか、自分なりのやり方やペースで、試行錯誤しながら、自分の諸感覚を通して感じたり、気づいたり、わかったり、できるようになったりすることが大事なことです。

それでは、幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿とその事例をみてみましょう。

1. 健康な心と体

- ・様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたり、主体的に取り組む
- ・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身につけ、自分の体を大切にす気持ちをもつ
- ・衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気づき、自分でできる
- ・集団での生活のながれを予測して、準備や片付けも含めて、自分たちの活動に見通しをもって取り組む

2. 自立心

- ・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う
- ・自分のことは自分で行い、自分でできないことは友達や大人の助けを借りて自分で行う
- ・いろいろな活動やあそびにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ

3. 共同性

- ・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する
- ・相手にわかるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、分かり合える
- ・様々な仲間との関わりを通じて、互いの良さを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく
- ・共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮し、やり遂げる

4. 道徳性・規範意識の芽生え

- ・してよいことと悪いこととの区別を考えて行動する
- ・友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する
- ・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する
- ・きまりがあることが分かり、守ろうとする
- ・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う
- ・友達と折り合いをつけ、自分の気持ちを調整する

5. 社会生活との関わり

- ・地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する
- ・親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ
- ・人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる
- ・四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に親しみを感じる

6. 思考力の芽生え

- ・物との多様な関わりのなかで、物の性質や仕組みについて考えたり、気づいたりする
- ・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予測をしたりして、楽しみながら工夫して使う

7. 自然との関わり・生命尊重

- ・自然に出会い感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じる
- ・水や氷など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする
- ・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする
- ・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの

不思議さ、生命の尊さに気づき、感動したり、いたわったり、大切にしたりする

8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心を持ち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする
- ・文字や様々な標識が、生活や遊びのなかで人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気づき、読んだり、書いたり、使ったりする

9. 言葉による伝え合い

- ・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えを相手に分かるように話したりすることで、言葉を通して友達と心を通わせる
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりして、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする
- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする

10. 豊かな感性と表現

- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かに持ちながら、楽しく表現する
- ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に書いたり、作ったり、演じたりする
- ・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気づいたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする

参考資料

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい20の姿」名古屋芸術大学教授 津金美智子
- ・資料3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿（参考例）」
文部科学省初等中等教育局幼児教育課ホームページ
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siryo/attach/1364730.htm